

9 捕集ネット



捕集ネットとは

- 水尻に流出防止のためのネットやすだれを設置することで、強制落水時の被膜殻の流出を物理的に防止する技術。

流出防止対策の取組事例（JA全農いばらき）

- 2021年には2か所、2022年にはさらに3か所のほ場にて、水尻等に被膜殻を物理的に捕集するネット等（玉ねぎネット、園芸用柵、BBQ網、すだれ、カゴ等）を設置し、流出防止の効果を検証。

実証試験の結果

		長所	短所
① ネット＋園芸用柵		園芸柵の下が空いているので、上の部分に稲わらが引っかかっても水面下の水流が確保でき、落水速度が落ちない。	ロータリーの使用時等、水尻の周りの作業が阻害される。
② ネット＋目の粗い網		園芸柵よりは目が細かいため、プラ殻の捕集効率が高い。	ロータリーの使用時等、水尻の周りの作業が阻害される。
③ すだれ		設置が簡単。水尻の周りだけに設置するため、作業が阻害されにくい。	水流が強い場合や稲わら等の浮遊物が詰まった場合、耐久性が劣る。
④ 受け皿		作業を阻害することなく設置が可能。落水速度を維持できる。	ゴミの重さにより受け皿になるカゴが破損する可能性がある。

出所：JA全農いばらき 資料より

取組の成果

- 安価な材料を用いることで、経費を節減。
- 実証試験の結果を定期的に関係者（県内JA・生産者等）で共有することで、注意喚起につなげている。
- ネット等の設置は普及に至っていないものの、県内のJA・生産者の問題意識は広まっている。

利用上の留意点

- 目詰まりによって落水に時間がかかる場合がある。
- 稲わら等の残渣の回収に手間がかかる。
- 回収したプラスチック被膜殻の処理方法が課題。

調査委託先：

 **株式会社 矢野経済研究所**

農林水産省から

「令和5年度 緩効性肥料における
プラスチック被膜殻の流出防止等に関する調査」
を受託し、調査を実施

